

# NPO法人 きらきら発電・市民共同発電所

「地域の中で住民と共に」 5つの理念

原発のない社会

争奪のない平和

温暖化対策

地産地消

災害対策

- ・ 1号機 2015年 若林区井戸浜 50KW (FIT) 津波被災地の宅地借用 野立て
- ・ 2号機 2015年 太白区柳生 30KW (FIT) 保育園の屋根 ⇒2020年社会福祉法人に寄贈
- ・ 3号機 2016年 塩釜市花立町 16KW (FIT) 保育所の屋根
- ・ 4号機 2018年 亘理町長瀬 50KW (FIT) 津波被災地の農地購入転用 野立て
- ・ 5号機 2019年 多賀城市伝上山 50KW (FIT) 病院駐車場にルーフ型
- 5.5号機 2019年 山形県最上郡 20KW (FIT) 豪雪地ソーラーシェアリング実証実験
- ・ 6号機 2020年 宮城野区蒲生 10KW (FIT) 個人宅の屋根仮借り方式
- ・ 7号機 2021年 若林区荒井 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・ 8号機 2022年 若林区荒井 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・ 9号機 2023年 (泉区南中山 4KW (FIT) 個人宅の屋根借り方式
- ・ 10号機 2024年 泉区长命ヶ丘 30kw 病院屋上 自家消費 (PPA)

計画

2023年10月現在

会員・準会員 約300名

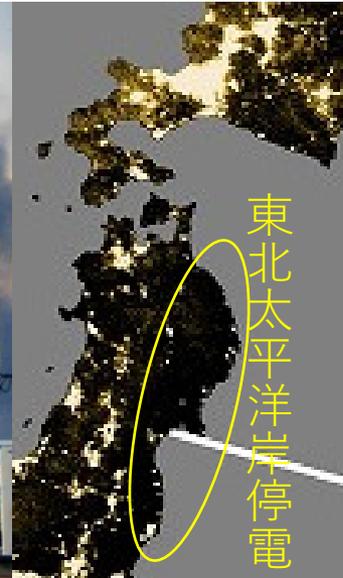
基金 約8000万円

(10年無利息返済)

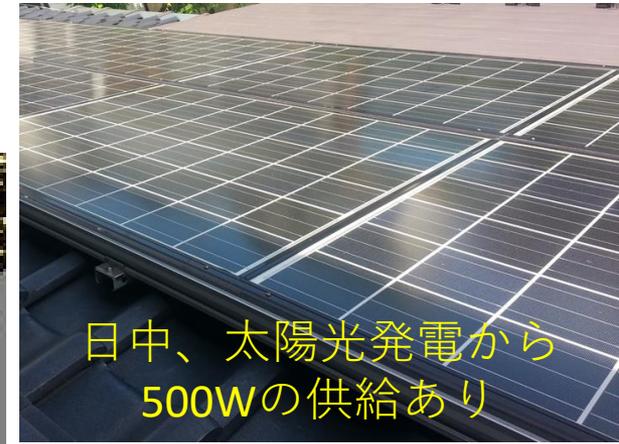
寄付金 約1200万円

# 2011.3.11の衝撃

仙台港の石油基地炎上



東北太平洋岸停電



日中、太陽光発電から  
500Wの供給あり

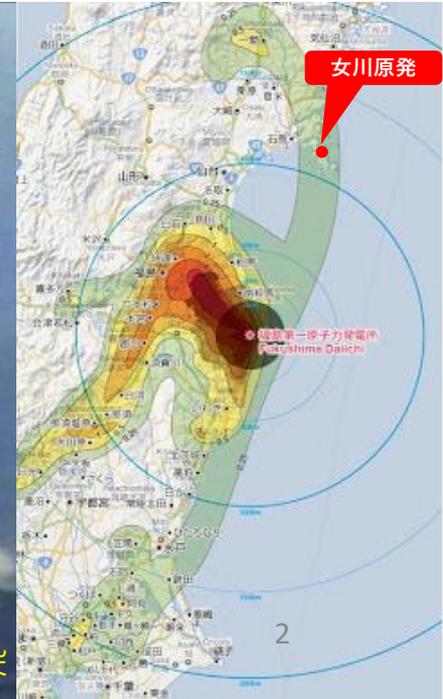
## エネルギーと 環境問題



ガソリン・灯油不足



原発事故と放射能汚染



女川原発

福島第一原子力発電所  
Fukushima Daiichi

# 出発は、脱原発宮城金曜デモ



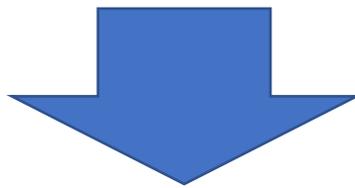
→ 原発に代わるエネルギーを自分たちの手で

# 抗議反対 から 対案へ

原発に頼らないエネルギーを  
市民の手で、ささやかだが・・・

市民運動として

この指とまれから始まった (2014年12月)



きらきら発電・市民共同発電所の

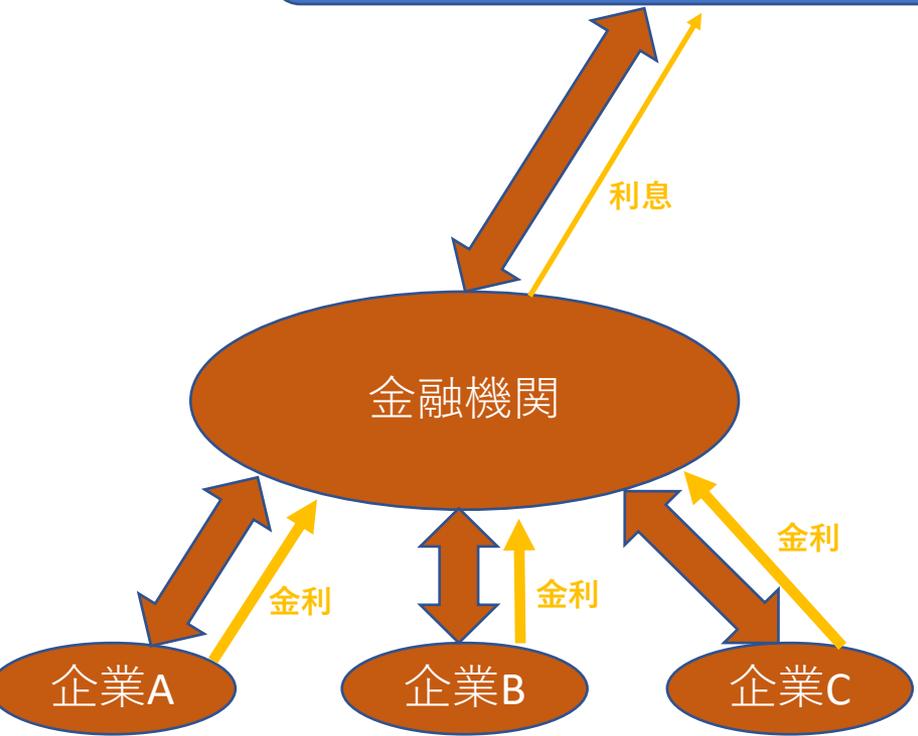
設立 と 諸活動 (2015年4月～)

# 協力資金の訴え

個人の資金（資産）  
将来の備え（子ども、孫、老後、住宅・・・など）

- 再エネ・省エネの普及・啓蒙・
- 学習
- 医療福祉活動支援  
など社会還元

個人資金の意思的運用  
事業参加ただし無利子



石炭火力・原発メーカー？



再エネの固定価格買取制度による事業保証

# 第1号機 若林区井土浜発電所

(2015/9/5 開所式)

50KW (76KW過積載) 32円/KW・20年FIT売電



## 津波被災の仙台・若林区井土地区

# 市民出資で太陽光発電

東日本大震災で津波被害を受けた仙台市若林区井土地区で6日、市民らが出資した小規模太陽光発電所の開所式があった。運営を担うNPO法人「きらきら発電・市民共同発電所」（仙台市）は「再生エネルギーの活用を通じ、被災地から脱原発を訴えたい」と意気込んだ。

NPO法人によると、市100平方メートルに太陽光パネル約300枚を設置した。出力50kwで住宅20、30分利子で出資し、宮城県への電力を賄えるという。助金と合わせて総事業費 発電した電力は東北電力に売却。設置工事は8月に始まり、今月中に稼働する。

総事業費2200万円 今月稼働

## 「脱原発訴える」

出資金は計2900万円集まっており、NPO法人は太白区柳生にも太陽光発電所を整備し、早ければ10月に稼働させる方針。約30人が出席した開所式で、水戸部秀利理事長(66)は「市民による小さな発電所を各地に広げ、脱原発の動きを加速させる」と述べた。

井土地区は震災前、約100戸約500人が暮らしていた。現在は8戸約20人に激減し、周囲には更地が広がる。町内会役員の大友

新さん(63)はこのままで発電所を地区の未来につなげたいと話した。



市民の出資によって整備された太陽光発電所

# 第2号機 太白区柳生もりの子保育園発電所 (2015/9/28 開所式)

30KW 32円/KW・20年FIT売電



⇒ 2020/7/15 宮城厚生福祉会に贈与

# 第3号機 塩釜市あゆみ保育園発電所 (2016/11/16 開所式)

2016年11月16日  
第3号機の開所式  
(塩釜あゆみ保育園)

低電圧16KW 24円/KW・20年FIT売電

パネルの一部



# 第4号機 亘理町長瀨発電所

(2018/9/4 開所式)

50KW (90KW過積載) 21円/KW・20年FIT売電



## 脱原発へ4カ所目太陽光

仙台のNPO、宮城・亘理に建設

市民の出資によって整備された4カ所目の太陽光発電所



NPO法人「きらきら発電・市民共同発電所」(仙台市)は、東日本大震災で津波被害を受けた宮城県亘理町長瀨浜地区に太陽光発電所を建設し、8月末に稼働を始めた。同法人が市民からの出資を募って整備した発電所は4カ所目となり、再生可能エネルギーの活用を増やして脱原発の機運を広めたいと考えた。

### 地元住民らから出資募る 農地跡にパネル、発電出力50キロワット

長瀨浜地区の農地だった約1600平方メートルに太陽光パネル約350枚を設置し、出力は約50キロワット。亘理町や岩沼市を中心に約60人が無利子で出資に応じ、総建設費約1800万円を工面した。

NPO法人は2015年9月、津波で被災した仙台市若林区井土地区で、市内初の市民出資による太陽光発電所を稼働。太白区柳生と塩釜市にある保育園の屋根にも「災害時の予備電源」を兼ねて太陽光パネルを設置している。長瀨浜地区を合わせた東北電への総売電出力は約150キロワットに達した。

出資金はこれまでに約210人から計約5000万円集まっており、事務局は「総出力は小さいが、脱原発に賛同する声は想像以上に大きい」と強調する。来年度は多賀城市にも発電所の整備を目指す。

今月8日、長瀨浜地区で行われた開所式には住民約30人が出席。水戸部秀利理事長(69)は「平和で環境に優しい再生エネルギーの主役であるべきだ。市民出資で一歩ずつ広めたい」と語った。

長瀨浜地区は2キロを超える津波が押し寄せた。太陽光発電所の建設地を譲渡した丸子信一さん(70)も自宅を失い、現在は仙台市内に住む。丸子さんは「地球温暖化防止につながる再生エネルギーを有効活用してもらい、ありがたいことだ」と話した。

# 第5号機 多賀城市伝上山発電所

(2019/3/31 開所式)

50KW (70KW過積載) 27円/KW・20年FIT売電



# 第6号機 宮城野区蒲生発電所

(2020/11/28 開所式)

10KW 21円/KW・10年FIT売電+自家消費



この向こうに  
仙台PSの煙突

パネル

舟要観音

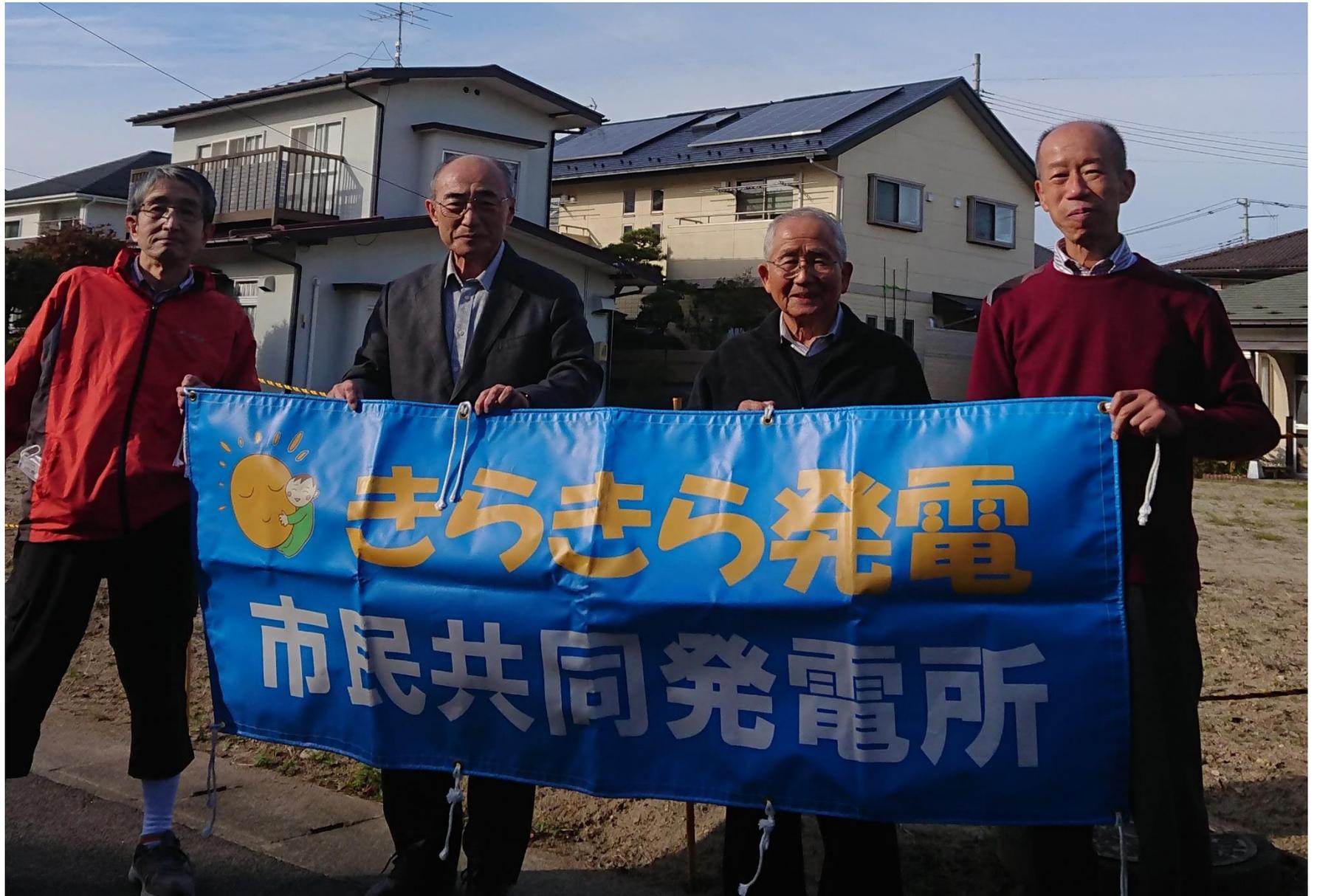
# 第7号機 若林区なないろの里

(2022/3/22 開所式) 4KW 屋根借り方式



# 第8号機 若林区荒井

(2022/10/27 開所式) 4KW 屋根借り方式



# 第5.5号機 山形県最上郡金山町有屋

(2019/7/22 発電開始) 20KWソーラーシェアリング

NPOかねやま電雪への資金援助



# みやぎ地域・市民電力連絡会

## 自然エネルギーで地域社会を変える



### 設立時構成団体

- ・おながわ市民電力共同発電所
- ・きらきら発電市民共同発電所
- ・ひっぽ電力株式会社
- ・みやぎ地域エネルギー合同会社

### 共同代表

- 高野 博 (おながわ市民電力発電所)  
水戸部 秀利 (きらきら発電・市民共同発電所)  
金上 孝 (ひっぽ電力株式会社)

### 事務局長

- 浦井 彰 (みやぎ地域エネルギー合同会社)

### 事務局

松浦真・広幡文・太齋義明・諸岡浩子

### 顧問

明日香 寿川 (東北大学教授)

2019年12月15日 結成 <目的>

本会は地球環境の保全と持続可能なエネルギー社会を目指し、再生可能エネルギーの利用促進を図るため、宮城県内の市民共同発電所や地域の電力関係団体との連携を図ることを目的とする。

2022/9/16 古川くりの木保育園

太陽光発電開所式

(株)エコスタイルの助成金

みやぎ民医連

(第1061号) (2)



### 保育園に太陽光発電を設置

## 未来ある子どもたちのために 地球環境を守り続けたい



古川くりの木保育園 園長 鶴谷 美奈



みやぎ地域・市民電力連絡会、古川くりの木保育園福祉会、共同代表3名と鶴谷園長、大内事務局長

このたび、みやぎ地域・市民電力連絡会から古川くりの木保育園に、太陽光発電設備を設置していただきました。2022年9月13日に運転を開始し、9月16日、開始セレモニーを行いました。

今回の設置は、(株)エコスタイル(本社・大阪)が実施する東北地方の復興支援と共に再生可能エネルギー普及活動の一環として、太陽光発電を無償設置する取り組み

「東北復興応援プロジェクト」の補助金を活用しました。

取り付けた設備は、発電能力7.7kwの自家消費型で、2階建て園舎の屋上に太陽光パネル21基、発電量などを確認できるモニターは玄関に設置予定で、園児保護者・職員が、いつでもどこでもらい発電しているか見られるようになります。

このプロジェクトの条件には、「設置を導入した翌年度から5年間環境教育を行うこと」が定められています。今後、園児や保護者を対象にみやぎ地域・市民電力連絡会の方々と共に、地球環境問題に関する環境教育を実施していきます。環境教育では、子どもたちにエネルギーがどう作られているのかを体験できるよう、実

際に見て・触れ・感じ・興味を持ち知る経験ができれば良いと思っています。

ここ数年、地球温暖化により今までにないレベルの猛暑や、大雨などの異常気象が増えているのを実感しています。太陽光発電の導入により二酸化炭素の排出量を減らし、クリーンでエコな再生可能エネルギーの普及が、今後一層進むことを望みます。

今回の設置をきっかけに、職員も一緒に環境問題を学び、未来ある子どもたちが豊かに暮らせるよう、地球環境を守り続けていきたいと思えます。

みやぎ地域・市民電力連絡会や、エコスタイルの皆さんのおかげで設置ができたことを深く感謝します。関わっていただいたみなさんの願いを思いを大切に、大事に使っていききたいと思います。

# 地域企画「井土プチマルシェ」への参加

2022/11/19 井土プチマルシェに「NPOきらきら発電」として参加しました。井土浜は仙台の津波被災地で復興が最もおこなわれている地域です。2015年にきらきら1号機が建設された記念すべき地区です。元住民やリルーツ活動をしている若者たちなどたくさん集まりました。子どもだけでなく若者も人力発電にはまり込んだり、興味を持っていただき、新たなつながりもできました。



# 泉病院屋上に太陽光発電設置を！

## 2024年新病院屋上に、あなたの寄付で実現を

### 未来に向かって環境に優しい病院をみんなの力で実現しよう

気候危機は待ったなしです。個人だけでなく、事業者もCO2削減の努力が求められます。事業所の新築にあたっては、省エネと再エネが検討される時代です。私たちNPO きらきら発電は、泉病院の2024年リニューアルに向け、泉病院と協力しながらその可能性を検討してきました。そして、病院屋上に30KW規模の太陽光パネルを搭載し、自家消費で病院の電力の一部をまかなうことを目標にしました。高騰する電気代の節約だけでなく、発電量がそっくりCO2削減に寄与します。しかし病院経営は厳しく資材高騰などで病院建築予算に余裕はありません。私たちNPO きらきら発電は、会員や病院友の会、地域の方々の力をお借りして、新病院屋上での太陽光発電を実現したいと考えます。病院は地域の健康を守る砦です。健康は安心できる環境が前提です。環境にもやさしい病院をめざして、みなさんの協力をお願いします。

NPO法人きらきら発電・市民共同発電所

理事長 水戸部秀利



2023/9/30

寄付金 1200万円目標達成！